

2024年中野ハイティーン会議での意見表明内容と区の対応状況

中野区子ども・教育政策課

(対応方針の凡例)

◎:全部実施可能 ○:一部実施可能 ●:実施済み △:検討中 ×:実施不可

No.	グループ	意見の要旨	担当部(担当課)	対応方針	対応方針の説明・理由	対応状況		対応結果 (2026年3月末時点)
						対応状況 (2025年4月～9月)	対応状況 (2025年10月～2026年3月)	
1-1	中高生の居場所 チャレンジ	中高生にとって地域の居場所は、地域の魅力を知り、新たな友人を見つめられる場所であるとともに、中野つながることができる居場所であってほしい。また、継続的に居場所の提供を行うことが必要である。	子ども教育部 (子ども・教育政策課、育成活動推進課)	◎	区有施設等を会場に中高生が気軽に訪れ、自由に過ごすことができるような居場所事業として、2025年度より拡充し、開催回を増やして実施します。	2024年度の試行実施(2回開催)をふまえて、2025年度では、中高生の居場所事業を年5回実施に拡充しました。中高生も運営に参画し、意見を取り入れながら「中高生がなんでも自由に過ごせる居場所」として、TEENS CAFEを2回(6、8月)実施しました。勉強やお話等が自由にできる空間となっており、中高生自身が企画したイベントも実施しています。10月、12月、2月についてもTEENS CAFEを実施予定です。	2024年度の試行実施(2回開催)をふまえて、2025年度では、中高生の居場所事業を年5回実施に拡充しました。中高生も運営に参画し、意見を取り入れながら「中高生がなんでも自由に過ごせる居場所」として、TEENS CAFEを3回(10、12、2月)実施しました。勉強やお話等が自由にできる空間となっており、中高生自身が企画したイベントも実施しています。	2024年度の試行実施(2回開催)をふまえて、2025年度では、中高生の居場所事業を年5回実施に拡充しました。中高生も運営に参画し、意見を取り入れながら「中高生がなんでも自由に過ごせる居場所」として、TEENS CAFEを3回(10、12、2月)実施しました。勉強やお話等が自由にできる空間となっており、中高生自身が企画したイベントも実施しています。
1-2	中高生の居場所 チャレンジ	今後、区で中高生施設を新たに整備する際に、以下が重要と考える。 【ハード面】 ・「抵抗感がない入りやすい外観」「入りやすいアットホームな雰囲気」交流を促すような内装「アクセスの良さ」が満たされたものとしてほしい。 ・施設を離れた中高生が地域に心を持てるような工夫も入れてほしい。(児童館での野豆知識交換の設置など) ・中高生がイベントを企画・実施できる運営体制づくりを進めてほしい。	子ども教育部 (子ども・教育政策課、育成活動推進課)	○	中高生年代向け施設を整備する際には、当事者である中高生年代の意見も聴きながら検討を進めていきます。	若宮児童館整備基本計画-基本設計-実施設計を開始し、ティーンズ会議や若宮高校生会において意見交換を行いました。	若宮児童館整備においては、ティーンズ会議や若宮高校生会の方との意見交換を行うなど、中高生年代のみならずの意見も踏まえ、「若宮児童館整備基本設計(案)」をとりまとめました。 また、基本設計(案)について、中高生年代の方を含め幅広く意見聴取を実施しました。	若宮児童館整備にあたって、当事者である中高生年代のみならずの意見も踏まえながら、設計を進めています。
1-3	中高生の居場所 チャレンジ	今後、区で中高生施設を新たに整備する際に、以下が重要と考える。 【ソフト面】 ・一人でも施設に行きやすいプログラム、定期的なイベントを実施してほしい。 ・施設を離れた中高生が地域に心を持てるような工夫も入れてほしい。(児童館での野豆知識交換の設置など) ・中高生がイベントを企画・実施できる運営体制づくりを進めてほしい。	子ども教育部 (子ども・教育政策課、育成活動推進課)	○	中高生年代向け施設を整備する際には、当事者である中高生年代の意見も聴きながら、中高生が気軽に行くことができるような運営体制を検討していきます。	他自治体の取組を参考にしながら、中高生年代が参加しやすく、主体的に企画、運営ができるイベントの実施や運営体制について検討していきます。	他自治体の取組を参考にしながら、中高生年代が参加しやすく、主体的に企画、運営ができるイベントの実施や運営体制について検討していきます。	若宮児童館の運営に関しては、当事者である中高生年代のみならずの意見も踏まえながら、検討を進めています。
1-4	中高生の居場所 チャレンジ	【情報発信面】 ・周知チラシのフォーマットを一般的なものと差別化するなどして興味を促してほしい。 ・「ハイティーン会議-中高生施設」とも、中高生に人気のあるInstagram、tiktokなどのSNSを導入し、継続的な情報発信を行ってほしい。	子ども教育部 (子ども・教育政策課)	○	情報発信面では、中高生へお知らせがきくような工夫を継続的に実施していきます。また、中高生年代がよく利用するSNSなどの媒体の活用について、検討していきます。	引き続き中野区若者情報発信アカウント(X)の運用等、若者への情報発信を継続的に実施していきます。また、中高生の居場所事業周知動画についてショート動画を作成し、区公式YouTubeやその他広報媒体にて掲載していきます。	引き続き中野区若者情報発信アカウント(X)の運用等、若者への情報発信を継続的に実施していきます。また、中高生の居場所事業周知動画についてショート動画を作成し、区公式YouTubeやその他広報媒体にて掲載していきます。 3月には、2025年度中野ティーンズ会議、若者会議の報告動画を中野区若者情報発信アカウント(X)に掲載しました。	引き続き中野区若者情報発信アカウント(X)の運用等、若者への情報発信方法を検討していきます。
2-1	政治参画 チャレンジ	自分たちのカフェで参加イベント参加者へのアンケート結果では、政治への興味は100点中で50～70点ほどの回答が多く、決して低くないことが示された。 一方で、政治に関心があるがそれを切り出せないという現状があり、「政治についてよく分からない人も気軽に直接話せる場、模擬投票を通して、政治や選挙について考えを深めたい」という声もあった。こうした政治について話れるカフェイベントが今後開かれてほしい。	選挙管理委員会事務局	○	現在、中野区選挙管理委員会事務局では若年層への啓発事業として、区内の小中学校・中学校・高校等を対象に、選挙啓発教材の貸し出しや模擬選挙、ポスターコンクール等を行っています。また、2023年度より民間事業者と連携した出前授業も新たに開始しました。今後、さらに民間事業者やNPOと連携し、提案いただいたイベントの趣旨を踏まえ啓発事業を検討していきます。	若年層への啓発事業として、区内の小中学校・中学校・高校等を対象に、選挙啓発教材の貸し出しや模擬選挙、ポスターコンクール等を行っています。また、2023年度より民間事業者と連携した出前授業も新たに開始しました。今後、さらに民間事業者やNPOと連携し、提案いただいたイベントの趣旨を踏まえ啓発事業を検討していきます。	若年層への啓発事業として、区内の小中学校・中学校・高校等を対象に、選挙啓発教材の貸し出しや模擬選挙、ポスターコンクール等を実施しました。また、民間事業者やNPOと連携した出前授業を実施し政治や選挙に関心をもってもらえるよう取り組みを進めています。今後この提案の趣旨を踏まえ啓発事業の検討をしています。	若年層への啓発事業として、区内の小中学校・中学校・高校等を対象に、選挙啓発教材の貸し出しや模擬選挙、ポスターコンクール等を実施しました。また、民間事業者やNPOと連携した出前授業を実施し政治や選挙に関心をもってもらえるよう取り組みを進めています。今後この提案の趣旨を踏まえ啓発事業の検討をしています。
2-2	政治参画 チャレンジ	中高生年代が、区長など区政に関わる人の「生の声」を聞ける場をもっと増やしてほしい。	企画部 (広報・広報課)	○	2024年12月、「将来の中野のまち」をテーマに、小中学生を対象とした区長と区長のタウンミーティングを実施し、多くの意見を聞くことができました。 2025年度は、小中学生を対象としたタウンミーティングを複数回行う予定です。これにより子どもたちの意見を区政に反映させるとともに、区政に関心を持つ機会を創出していきます。	2025年7月に「中野区の未来について」をテーマに武蔵国小中学校の6年生を対象とした区長と区長のタウンミーティングを実施し、多くの意見を聞くことができました。 また、2025年10月に「子どもにとって住みやすいまちにしたい」をテーマに、区内の小中学校の生徒を対象に、区長と区長のタウンミーティングを実施する予定です。 2025年12月に、「中野区基本計画-区有施設整備計画(案)」に対する意見聴取のため、18歳以下のお子さんを対象としたタウンミーティングを実施する予定です。	2025年10月に「子どもにとって住みやすいまちにしたい」をテーマに、区内の小中学校の生徒を対象に、区長と区長のタウンミーティングを実施しました。 また、2025年12月に、「中野区基本計画-区有施設整備計画(案)」に対する意見聴取のため、18歳以下のお子さんを対象としたタウンミーティングを実施しました。これらにおいて、子どもたちが、区政に対する多くの意見を聞くことができました。	2025年度も、区内の小中学校等において、タウンミーティングを行い子どもたちの意見を聞きながら、区政への反映を行いました。今後も子どもたちがタウンミーティング等を通じ、区政に関心を持つ機会を創出していきます。
3-1	校則 チャレンジ	・前掲として、一人ひとりの個性や体調が尊重される校則であるべき。 ・そのために、一定期間で校則を見直すことをルーティン化してほしい。 ・既存の校則を完全に変える「無さす」のではなく、一時的に変更する「お試し期間」を設けて、どのように運用できるかを検証すること、校則を変えたいという声も聞いてほしい。 ・進めが速く納得できる校則を作るために、生徒自身が校則づくりに参加できる仕組みを制度化してほしい。	教育委員会事務局 (指導室)	○	2024年度、校則チャレンジで提案された意見は区立学校の校長に届きました。区立中学校では、生徒会等の校役や生徒アンケートなどを通して、生活の決まりについて意見を述べる場を設けて「見直し」を行っています。例えば、着下やセーター、コートなどの色について、生徒会の話し合いや生徒と教員との協議を通して決定しています。今後も提案された意見等を踏まえ、学校が考える教育的意義と誰にも通じやすい納得できる校則のあり方について、改めて生徒や保護者、地域に、保護者や学校とより通じて丁寧説明していくよう助言していきます。	校則については、各区立中学校が毎年見直しを行っています。今年度も生徒会等の活動や生徒アンケートの実施など、多様な方法で生徒自身が校則づくりに参加できるようにしています。	校則については、各区立中学校が毎年見直しを行っており、今年度も生徒会等の活動や生徒アンケートの実施など、多様な方法で生徒自身が校則づくりに参加し、見直しを行っています。	2025年度も、各区立中学校が様々な方法で生徒の意見を聞きながら、校則の見直しを行いました。今後も生徒自身が校則づくりに参加できるような取組を進めていきます。
4-1	生徒会 チャレンジ	従来の生徒会意見交換会は形式的な活動報告となっており、新たなアイデアや活動が生まれにくい。 生徒会役員だけでなく、様々な生徒も参加でき、カジュアルな雰囲気や学校のあり方を話し合える場を作りたい。	教育委員会事務局 (指導室)	○	2024年度、区立学校には、「子どもの意見を反映させた教育活動」を推進させるため中学校1校30万円、小学校1校20万円の予算を付け、招きたい講師を子どもたちが考え、活動を実施してきました。このことをきっかけとして、毎年行われている生徒会意見交換会の中で、各校の企画や運営の方法、取組の成果や課題などを共有し自校での取組に生かすことを通じて、子どもたちが考える学校づくりにつなげたいのでないかと考えています。	・2025年度は、「子どもの意見を反映させた教育活動」を推進するために、各校で「子どもたちの意見を反映させた教育活動」を推進させるための工夫を凝らし、新たなアイデアを生かした多様な活動に取り組んでいます。 -各区立学校では、「子どもの意見を反映させた教育活動」を推進する予算以外にも、授業や学校行事の中で生徒の意見を反映した活動を取り入れるなど、生徒役員だけでなく、様々な生徒も参加し、魅力ある学校づくりに取り組んでいます。	・2025年度に制度が改善されたことを受け、各校では「子どもの意見を反映させた教育活動」を推進する予算に加え、授業や学校行事の中で生徒の意見を反映した活動を取り入れるなど、生徒役員だけでなく、様々な活動に取り組んでいます。 -各区立学校では、「子どもの意見を反映させた教育活動」を推進する予算以外にも、授業や学校行事の中で生徒の意見を反映した活動を取り入れるなど、生徒役員だけでなく、様々な生徒も参加し、魅力ある学校づくりに取り組んでいます。	2025年度も各区立学校では、「子どもの意見を反映させた教育活動」を推進する予算に加え、授業や学校行事の中で生徒の意見を反映した活動を取り入れるなど、生徒役員だけでなく、様々な活動に取り組んでいます。
4-2	生徒会 チャレンジ	生徒会が担当する取り組みに対し、生徒会の任期に間に合うように、生徒会だけでなく教員もサポート感を持って対応してほしい。 また、生徒だけでなく、各校の教員同士でも校内の仕組みを話し合える場を作るべき。	教育委員会事務局 (指導室)	○	・生徒会の任期に合わせて「子どもの意見を反映させた教育活動」の取組を行うことができよう、後期生徒会の立ち上げ期に話し合いを開始するなど、各校が工夫して取り組んでいます。 ・2025年度は、各校の企画や運営の方法、取組の成果や課題などを共有し自校での取組に生かすことを通じて、子どもたちが考える学校づくりにつなげたいのでないかと考えています。	教員研修においても、「子どもの意見を反映させた教育活動」について、教員同士が協議する場を設けていきます。	教員研修で共有した内容を生かして、生徒会の任期に合わせて「子どもの意見を反映させた教育活動」の取組を行うことができよう、後期生徒会の立ち上げ期に話し合いを開始するなど、各校が取り組みを工夫、改善して取り組んでいます。	ハイティーン会議での提案を受け、教員研修で教員同士が話し合う場を設けたことは、取組を進めるうえで効果的でした。今後も、教員研修等で、それぞれの学校が取り組んでいる活動の好事例を共有する場を設定していきます。
5-1	交流 チャレンジ	中野区には多国籍・多世代の人が住んでいるが、中高生の立場からすると、学校以外の交流の場が少ないと感じている。交際人と交流することで、様々な価値観を知るとともに、地域で助け合える関係性を築きたい。	区民部 (文化振興・多文化共生推進課)	○	外国人と地域住民との交流機会の創出を推進していきます。	地域の大学等と連携して、外国人と地域住民が交流する機会を創出する事業を企画・検討していきます。	外国人と区民との交流機会として、2025年10月に区内大学・企業によるまちあるきイベントが実施され、区も広報等の協力を行いました。	ハイティーン会議での意見も踏まえ、外国人と地域住民との交流機会の創出に取り組んできました。引き続き外国人と日本人が互いに認め合いながら、地域の一員として地域社会に貢献し活躍してもらえよう、多様な機会の創出を推進していきます。
5-2	交流 チャレンジ	区は、地域住民にアンケート等を行い、外国人住民がどんな生活を送っているか「知りたい」と思っている。ぜひ、ぜひ、等の実施把握をするべき。特に外国人住民については、把握した意見をもとに、外国語対応の充実や文化理解の促進など、交流のために必要な対応を検討・改善してほしい。	区民部 (文化振興・多文化共生推進課)	○	2024年度実施した「外国人と区長のタウンミーティング」でも外国人住民の意見を聴きました。今後も機会を捉えて外国人住民の意見の把握を行い、施策に生かしていきます。	明治大学 国際日本学部 山崎ゼミとの共催により、2025年7月2日に実施した「区長と留学生の懇話会」において、外国人留学生の意見を聴きました。今後も機会を捉えて外国人住民の意見の把握を行い、施策に生かしていきます。	区の後継事業である「第13回なかの多文化共生フォーラム」に参加し、文化やコミュニケーション方法の違いについて外国人の意見を聞くなど、外国人住民の意見を把握を行いました。	2025年度はイベント等の機会を捉えて外国人住民の意見を把握し、施策期間の参考にできました。今後も外国人の実情が把握できるよう、実地調査の実施の可能性も含めて検討し、取り組んでいきます。
5-3	交流 チャレンジ	区は、区だけで新たなイベントを立ち上げるよりもすでに交流に関する実績、ノウハウやコミュニティを持っている地域団体のリソースを最大限活用し、地域住民の交流を促進してほしい。また、民間団体に補助金を出したりネットワークを形成するなど連携を強化してほしい。	区民部 (文化振興・多文化共生推進課)	○	地域団体との連携の強化に努めるとともに、「区民公益活動に関する助成(政策助成)」等の助成制度を適切に案内していきます。	地域団体との連携の強化に努めるとともに、「区民公益活動に関する助成(政策助成)」等の助成制度を適切に案内しています。	引き続き、地域団体との連携の強化に努めるとともに、「区民公益活動に関する助成(政策助成)」等の助成制度を適切に案内しています。	事業の実施等を通じ、文化・芸術団体をはじめとする地域団体等との連携が深まりました。今後も地域住民の交流につながる地域団体との連携を深めるとともに、助成制度等を適切に案内していきます。
5-3	交流 チャレンジ	(同上)	地域支えあい推進部 (地域活動推進課)	○	民間団体を対象とした補助金については、他自治体を参考に研究していきます。	地域活動団体同士の交流の機会を設定し、引き続き各団体の実績やノウハウの共有に努めます。 地域団体への補助金は、より適切なあり方となるよう整理していきます。	交流や地域活動フェスティバルを開催し、各団体の実績やノウハウを共有し、交流を促進していきます。	引き続き、交流促進やネットワーク形成に努め、連携強化を目指していきます。
5-4	交流 チャレンジ	交流活動を活性化するには、参加ハードルを下げる工夫が必要。単発ではなく定期的なイベントやフェスティバルを開催するなど、気軽に集まれる機会を増やし、会場や内容についても知り合い同士で話し合っ行ってきたくなるものとしてほしい。また、交流イベントを行う際には、学校などを通じた発信やSNSの活用など、参加したい人にとって情報が行き渡るよう、より多くのターゲットに情報が届く発信の工夫をしてほしい。	区民部 (文化振興・多文化共生推進課)	○	区が補助金を出している中野区国際交流協会では、定期的に外国人と地域住民が交流するイベントを実施しています。今年においては、料理講習会や防災リーダー交流会、たなばたイベント等を実施しました。今後も、イベントの企画や内容、周知方法について、区も関わりながら充実や改善を図っていきます。	区が補助金を出している中野区国際交流協会では、定期的に外国人と地域住民が交流するイベントを実施しています。今年においては、料理講習会や防災リーダー交流会、たなばたイベント等を実施しました。今後も、イベントの企画や内容、周知方法について、区も関わりながら充実や改善を図っていきます。	区が補助金を出している中野区国際交流協会では、定期的に外国人と地域住民が交流するイベントを実施しています。今年においては、料理講習会や防災リーダー交流会、たなばたイベント等を実施しました。今後も、イベントの企画や内容、周知方法について、区も関わりながら充実や改善を図っていきます。	引き続き、区が補助金を出している中野区国際交流協会のイベント等について周知するなど、より多くのターゲットに情報が届くよう発信していきます。
5-4	交流 チャレンジ	(同上)	地域支えあい推進部 (地域活動推進課)	●	地域活動推進課では、地域の公益活動団体、地域住民の交流を促すため、2025年1月24日に第一回「なかの地域活動フェスティバル」を開催しました。	-	-	-